福島放技ニュース
THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS
2023
5月26日 号
194 VOL.

発行所　公益社団法人　福島県診療放射線技師会　〒963-0201　郡山市大槻町字原ノ町3-1　TEL/FAX 024(954)7595
ホームページアドレス　http://fart.jp/

副会長　佐　藤　龍　一

新緑の季節となりました。令和５年度が始まり早１ヶ月が過ぎようとしていますが、職場が変わられた方や就職された方は新生活にも多少慣れたころではないでしょうか。

職場に新しい仲間が増えると多少なりとも新しい風が吹き、いい意味での緊張感が生まれ、何となく自分も変わらなきゃと考えてしまいます。

先日、令和５年度コロナワクチンの接種券が郵送されていました。まだ開封していませんが、対象者は65歳以上の方・持病のある方・医療関係者等の表示がありました。何となく５月８日以降は、２類感染症から５類感染症へ移行する＝マスクの着用も強要されない、元通りの生活が出来る＝コロナ感染症が消滅したかの様に捉える自分がいます。今後の感染対策は、‘基本的に個人の判断で’‘もし感染した場合は５日間の外出自粛を’‘体調不良時は、キットで自ら検査を’‘病院等ではマスクの着用を推奨’とのことです。しかし、現実には何ら変わってはいません。ゴールデンウイーク直前の報道を見ると、コロナ感染者数が先週の同曜日と比較すると〇人増加している等と言っているし、ある専門家は今後第９波が起こるとの予想をしています。今後もまだまだ気を引き締めていかなければならない、と暗い話題になってしまいました。

何はともあれ、これからはアフターコロナです。コロナ禍で感染への不安・心労など辛かったことも多かったと思いますが情報の共有などチーム医療の重要性を感じることが出来たのではないでしょうか。今後は、この経験と知識を生かし問題をクリアする・タスクシフトの実施時にも活用できればと思います。

また、Web利用での講演会がここまで普及したのもコロナ禍があったからでしょう。全国の興味のある講演会には時間さえ合えば参加できる便利さがある一方、会場での対面式の講演会で直接人と会って聞く・話す・感じる必要性も感じます。ハイブリット型講演会が最適かもしれませんが準備する側の労力が大変です。今後は、想定される参加者により最善の形式での開催が行われるのでしょう。

最後になりますが、2019年度から2022年度まで理事を務め、編集広報委員会・福放技ニュース担当・後半の２年間は副会長も務めさせていただきましたが、この度退任することとなりました。振り返りますと、2019年10月福島県内各地で河川の決壊等が起き甚大な被害があり、復旧半ばの2020年には対岸の火事程度と考えていたコロナ感染症が国内でも猛威をふるい現在に至っているなど、災害？の多い時期となり直接会員の皆様とお会いする機会がなく残念に思います。今後は、一会員として引き続き会の発展にお力添えできればと考えています。

会員の皆様も会へのご意見・要望等を積極的に発信し、コロナ前以上の活動とご参加をお願いします。

# 福島県立医科大学　保健科学部診療放射線科学科だより

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科　加　藤　貴　弘

皆さま、こんにちは。唐突ですが、令和５年４月１日付けで診療放射線科学科長を拝命いたしました加藤貴弘と申します。改めましてこの場をお借りしまして一言ご挨拶させていただきます。

私はこれまで放射線治療を中心に長らく臨床現場に従事した後、平成30年８月から本学新医療系学部設置準備室に着任し、本学部の立ち上げから運用まで携わって参りました。開設３年目を迎え、いよいよ本格化するこのタイミングでの学科長就任ということでその責任の重さを日々噛みしめているところです。本学科は、福島県内唯一の診療放射線技師養成施設であり、学生教育はもとより、放射線医療のさらなる発展のため、卒後教育にも広く貢献することが求められていると考えています。福島県診療放射線技師会会員の皆様のご期待に応えられるようにこれまで同様、教員一同誠心誠意努めて参りますので今後とも皆様のより一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、前任に引き続き、今後も本紙面をお借りして本学の状況、活動など、ホットな話題を提供させていただければと考えていますが、今回はこの４月より新たに着任した宮司典明助教からの自己紹介をお届けしたいと思います。

それでは、宮司先生、よろしくお願いいたします。

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科　宮　司　典　明

この度、2023年４月１日付で福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科の助教として着任致しました宮司　典明(みやじ　のりあき)と申します。福島県診療放射線技師会会員の皆様に自己紹介の場を設けて頂きましたことをお礼申し上げます。この紙面にて自身のことを少しでも知って頂けたら幸いです。

私は東京で小学校・中学校・高校を卒業後、すぐに診療放射線技師を目指していた訳ではありません。当初は分析や研究開発などに携われる企業に就職するために大学院進学も視野に考えて明治大学農学部へ進学しました。分析化学を主にする研究室に配属され、いよいよ専門的な研究活動がスタートすると期待に胸を高まらせていましたが、残念ながら研究室では学ぶための教育環境が構築されておりませんでした。やる気はありましたが何も学べず、そのベクトルをどこに向けたら良いのかわからずに研究室に通う毎日に悶々とした記憶があります。結局、研究室の卒業研究は最後まで完遂することができませんでした。いま思えば私自身の経験も浅く、自発的な行動や情報を得る術が足りていなかったと猛省しています。卒業後は理化学機器メーカーに就職し、仙台市で２年間営業職として勤務しました。東北６県をカバーしており、さまざまな場所に出かけて東北地方の四季折々の良さを改めて認識しました。福島県立医科大学に着任した現在はこちらに戻って来たことを実感しつつ、これからもいろんな場所を巡ってみたいと思います。

話を戻しますが、診療放射線技師を志したのは24歳の時です。これまで医療の世界とは全く関わりがな

かったのですが、営業マンとして働く中で顧客が本当に必要となるサービスを提供する「医療」に強い興味を抱きました。2008年に中央医療技術専門学校で診療放射線技師免許を取得し、“がん”を専門とするがん研究会有明病院に2011年に就職し、現職に至るまで11年程勤務しました。在職中の2016年には放射線取扱主任者を選任し、社会人院生として2019年４月から2021年３月に金沢大学の博士後期課程を修了することができました。

研究というものにはこれまで縁がありませんでしたが、病院勤務で初年度より核医学部門に配属されてから疑問を実証して臨床に役立てる研究の面白さにどっぷりハマりました。元々は臨床業務の知識やスキルを身につけて多方面で活躍できる診療放射線技師を目指しておりましたが、これも病院の諸先輩が「研究」を研究単体で終わらせずに臨床業務、ひいてはそれが患者さまのためになることを指針として示して頂いたからに他ならないと考えています。これから本学科の学生には臨床業務や研究の意義などしっかりと意識づけて教育にあたり、福島県診療放射線技師会を盛り立てていければと思っております。

私は放射線管理と腫瘍核医学が専門となります。近年は放射性薬剤をがん細胞内に送達して内照射できる核医学治療がとてもホットなトピックスとして取り上げられています。2021年に登場した$^{177}$Lu核種による神経内分泌腫瘍の治療は特別な措置を講じた一般病室（特別措置病室）でも入院可能となり、放射線治療病室がない各施設で導入が容易となっております。前職でも特別措置病室の立ち上げから導入まで一貫した経験を有しておりますので、もし御施設で導入を検討しておりましたら遠慮なくお声がけください。皆様と意見交換できる場を楽しみにしております。今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

宮司先生、ありがとうございました。

これでようやく診療放射線科学科教員16名が勢揃いとなりました。これを機にさらなる飛躍を目指す所存です。本年度も福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科をどうぞよろしくお願い申し上げます。

## ～ 県会長＋JART地域理事　「オンレコ」～

### １　「年度末の電子申告POSS」　３月17日

公益社団法人として、年度末の電子申告を行いました。

### ２　「県技師会期末監査」　４月25日

福島市の高橋会計事務所で行われました。来年度より監事・会計士が郡山の監事と税理士に替わります。長年、無償でも監事を務めていただいた事に感謝して記念賞状をお渡ししました。

### ３　「JART第１回理事会の資料提出」　５月１日

東北６県の活動報告と活動予定をまとめてJARTへ提出しました。

### ４　「JART第１回理事会」　５月13日

午後からWeb開催の予定で上記３を説明します。

### ５　「第１回東北会長会議」　５月15日

TCRTのJART企画の今後の方向性について議論を行います。またJART第１回理事会の報告もする予定です。

# 地区だより

## 会津地区

### 「第107回会津画像研究会」開催

令和５年３月15日㈬にWeb開催にて行われました。今回は「心電図を知り、心臓CTに生かす」をテーマとし、３つの演題発表がありました。

演題１「サ・イ・ナ・ス」と題し、福島県立医大附属病院　角田和也氏より、あらゆる心電図波形を提示し、説明して頂きました。演題２「心臓CTの基礎」と題し、会津中央病院　齋藤浩行氏より、Canon社製Aquilion One（360列）における冠動脈CT及び左室CTの撮影方法や症例の発表をして頂きました。演題３「当院における冠動脈CTの心電同期撮影法について」と題し、竹田綜合病院真壁晴香氏より、GE社製Revolution CT（256列）における冠動脈CTの撮影方法や被ばく線量、症例の発表をして頂きました。

３者共に、心電図を観察し心臓がどのような動きをしているか理解することが心臓CTを行ううえで大切である、装置の特性や撮影方法を理解することで最適な心位相による静止画を得ることが必要であると話していました。

今回の演題発表で得た知識は、すぐに自施設での検査に活かすことができる内容であったと感じました。

（風間）

## 浜通地区

### 「令和５年度浜通り地区協議会全体会」開催

令和５年４月22日に令和５年度浜通り地区協議会全体会が書面決済にて開催され、今年度もWebexにて視聴できる体制にて行われました。名城委員長からの令和４年度の活動報告および５年度の事業計画の報告があり、４年度の決算報告および５年度の予算案も書面での承認も得られましたので無事終了しました。

全体会終了後に令和５年度第１回委員会が開催され、いわき市医療センターの講堂に令和５・６年度の委員の方が集まりました。５年度浜通り地区協議会の事業に関して委員長から報告があり、浜通り地区委員の役割分担の確認、学術大会・夏期研修会を８月26日に予定し演題を募集する件、５月27日県技師会定時総会をいわき市医療センターで開催することを確認しました。参加した委員の要望として告示研修を受けていない技師も多いので、受講の機会を増やして欲しい話がありました。今年度から新たに委員を受けられた方もいますので、皆で協力して浜通り地区協議会を盛り上げていきたいと思います。

（大井）

# 編集後記

新年度を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか。先日横浜で開催されたJRC2023は多くの参加者に恵まれ、コロナ以前のような活気に溢れていたようですね。

世間は以前の環境に戻りつつありますが、医療従事者である私たちは、今後もそれなりの感染対策を求められる状況でしょうか。

次回の担当時は、コロナの話題が減っていることを願っています。

（安藤）